

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年7月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676600218
法人名	有限会社やわら
事業所名	グループホームやわら
所在地	鹿児島県曾於市末吉町末吉町二之方5232-8 (電話) 0986-76-3727
自己評価作成日	令和1年12月14日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには田んぼや畑が広がり、幹線道路から少し奥まった静かで落ち着いた場所に、まるでその自然に溶け込むようにグループホームやわらは建っています。緑の木々を抜けて吹く風は心を落ち着かせ、四季折々の草花は優しい気持ちにしてくれます。この様に自然に囲まれた落ち着いた環境の中で、穏やかで安心感のある生活を送って頂けるよう、私たちは入居者様お一人お一人に寄り添った援助を心掛けております。

また、毎日の健康チェックによる異常の早期発見と医師や訪問看護事業所との緊密な連携により健康状態の維持・改善にも努めております。

なお、ご本人様やご家族様から住み慣れたグループホームやわらで最期の時を迎えたいとご希望があれば、施設で看取りの援助も行っております。

介護理念は玄関や事務所の目に付きやすい場所に掲示してあるため、毎日自然に目に入り確認することができており、日々のケアの実践につなげることができている。特に「したい事、したくない事を理解した上で、あなたのお手伝いを致します」「常に清潔で楽しい生活が続けられる、住まい作りに努めます」を大切に考え、本人本位の生活が送れるよう意識して支援につなげている。

複数の自治会に隣接しているため自治会には未加入だが、地域行事に参加したり、校区公民館の集会に出向くなど、積極的に交流し事業所の実情を伝えるようにしている。また、災害時に協力を要請する「地域協力隊」との関係継続や、散歩に出かけた際に地域住民と挨拶を交わすなど、地域交流を大切に考えている。

身体拘束廃止委員会を定期的に開催し職員会議で報告すると共に、年1回は職員会議でも話し合いを行うことで、拘束や虐待のないケアの実践につなげている。また、言葉による拘束についても十分認識すると共に、方言の使用や行動を制限させてしまう言葉を使う場合は、その必要性や意味合いについて理解した上で用いるようにしている。

入居後の生活が、本人本位の暮らしの継続につなげられるよう、入居前のアセスメントを重要視しており、担当していた介護支援専門員や病院の相談員、家族等から生活歴や行動様式、暮らしぶりを知る努力を惜しまず、職員間で情報を共有し合い日々の支援につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設であるべきことが記載された理念を施設内の目の届くところに掲げ、職員への意識付けを行っている。	理念と社訓を目に付く場所に掲示しているため毎日確認でき、意識付けを図ることができている。利用者のしたいことや思うことを共に生活する中で理解できるよう努め、日々の支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の散歩は、地域住民との貴重な交流の機会と捉え積極的に取り入れている。なお、不測の事態で地域住民に迷惑がかからないように必ず職員が同行している。	校区公民館の集会に出向いたり、災害時に協力を依頼する「地域協力隊」との関係継続のほか、散歩に出かけた際に地域住民と挨拶を交わしたり、旬の野菜をお裾分けしてもらうなど、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学や入居相談の他、認知症カフェの運営に参加し、地域住民からの認知症介護に関する相談や質問に対して懇切丁寧にお答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、施設管理者、入居者家族の代表、地域住民の代表、行政で構成している。男女、介護度、年齢などの分布状況などの報告の他、行事や施設の取り組みを紹介し意見を頂いている。	現在、コロナウィルス感染症対策のため、運営推進会議は事業所職員のみで実施し、議事録を提出するに留まっているが、ウィルス流行以前は、家族代表や民生委員、地域の相談役にも参加してもらい、利用状況の確認や活動内容の報告等を行っていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営基準上の疑問点はもちろんのこと、入居者やご家族への援助についても担当者に相談している。行政等からの問い合わせや依頼に対しては積極的に協力している。	行政職員とはコロナウィルス感染症対策についてや運営に関することを随時相談し意見を求めている。また、福祉事務所とも連携し、利用者の生活に関することや支援についての意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	経営者、管理者、職員代表が「身体拘束廃止委員会」に於いて定期的に話し合うとともに、全ての職員が身体拘束廃止の必要性について理解を深めることができるよう、月例の施設内研修で身体拘束廃止をテーマにした研修を計画・実施している。	年4回、身体拘束廃止委員会を開催し意見交換を行い、職員会議で報告するほか、年1回は内部研修を行い、拘束のないケアの実現につなげている。外出しそうな様子を察知した際は、職員間で連携して見守り、外出した場合はそっとうつて行き、タイミングを見計らい声をかけるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が高齢者虐待の排除の必要性について理解を深めることができるよう、月例の施設内研修で高齢者虐待廃止をテーマにした研修を計画・実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生年後見人制度を利用している入居希望者がおられたので、制度の概要などについてカンファレンスで話し合った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、必ず書面を用いてハッキリと分かりやすい言葉で懇切丁寧に行うよう心がけている。特に利用料金等については、料金表を基にできる限り細かく説明するように心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所前の目につきやすい場所に「ご意見箱」を設置し書面で意見等を受け付けている。その他、入居者は日常生活の中で、ご家族には面会に来られた時に積極的に声掛けを行い意見を伺うように心がけている。	年1回敬老会と併せて家族会を開催しており、多くの家族の参加が得られ、活発な意見交換の場となっている。コロナウィルスによる面会制限についての問い合わせに随時対応するほか、毎月発行している「やわら新聞」でも説明することで家族の不安軽減に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の職員会議やカンファレンスに於いて、管理者と職員との意見交換を行い、職員の意見が運営に反映できるように努めている。	2ユニット合同で実施する職員会議では、ケアに関することのほか、修理や物品購入希望の意見も多く、活発に意見交換がなされている。また、希望休の取得や研修への参加、資格取得のための支援など、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の能力や業務への取り組み状況等の把握に努めるとともに、定期昇給の他、資格取得や研修修了に応じて手当の支給や基本給に上乗せを行う等、職員が常に向上心を持って働ける職場作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員の能力の把握に努めるとともに、管理者に年間研修計画を策定させて、職員一人ひとりの介護知識や介護技術の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、地域包括支援センターを中心とした地域ネットワークの重要性を理解し、職員を研修会へ積極的に参加させている。また、地域のサービスの質の向上が図られるよう事業所間の交流にも努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能な限り収集した情報を職員が共有し、新規入居者やその家族との関係作りに活かしながら安心感のある生活の実現に努めている。特に入居当初は、頻回の声掛けや傾聴で馴染みの関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時は、常に傾聴と懇切丁寧な説明を心掛けている。困り事や不安な事、要望等は援助計画に盛り込むことを説明して、安心して施設を利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の他、担当ケアマネや利用していた介護サービス事業所等からも可能な限り多くの情報を収集し、それらを基に本人や家族の現状や要望に合った援助の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の「できる事」と「できない事」をしっかりと見極め、必要な援助を提供するとともに、残存機能や能力を日常生活の中で最大限に活かせる援助を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居により家族との絆が途切れることが無いよう、援助計画に家族との面会や外出、外泊をインフォーマルなサービスとして必ず位置付けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	接遇についての研修会を実施し家族や友人、地域の人たちが訪問しやすい雰囲気作りに努めている。面会時は椅子やお茶等を準備するなどして、ゆっくり過ごせる環境作りに努めている。	初回アセスメント聴取時にこれまでの馴染みの関係について詳しく聞き取り、美容室やお墓参り、地元のサロンに参加するなど、関係継続に努めている。また、コロナウイルス流行以前は、家族の協力の下で外出し、自宅で過ごす利用者もいるなど、積極的に出かけていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や身体機能に応じて話題の提供や会話の橋渡しを行っている。また他入居者との人間関係に応じて食事やお茶、レク時の座席の位置に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、死亡により退居になった入居者の家族に対しても各種手続きの援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの聞き取りの他生活歴や入居前の暮らしぶり、入居後の様子から望む暮らしの把握に努めている。	入居前の情報を介護支援専門員や病院の相談員、家族から詳細に聴取すると共に、入居後は普段の会話や表情等、言動から思いを汲み取ることで本人本位の生活が送れるよう支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りの他介護サービスを利用していた場合は、同意を居て担当ケアマネや介護サービス事業所から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、常に入居者の心身の状態や能力、他入居者との関係性等を観察し、ケアカンファレンスで情報の集約と共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の他、掛かりつけの医療機関の医師、訪問看護師からも可能な限り情報を得てケアプランに反映させるように努めている。また、定期的なモニタリングで現状に合ったプランへ見直しを行っている。	本人、家族の思いや意見を基に、毎月のカンファレンスやモニタリング記録、医師や訪問看護師からの情報も参考にしながら介護計画を立てている。現在、コロナウィルスの影響で担当者会議に家族の参加が得られない状況であるため、介護計画書を丁寧に説明し交付するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェックの他、食事摂取量や排泄回数・量、服薬確認等のケア実施状況はケア実施表に、気づきや特変はケース記録に記録するとともに、申し送りで情報の共有を図っている。ケアプラン見直し時の資料としても活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買い物、一時帰宅等の外出援助、体調不良時の通院・入退院援助、その他日常生活自立のための工夫等、入居者の心身や家族の状態に合った援助の提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や病院受診等の活動を通じて地域や社会との関わりを持ち続けることで、入居した後も社会の一員としての生活が送れるような援助を心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、必要な情報提供を行い本人や家族が決定している。医師や訪問看護師等の医療機関と常に連携を図るとともに、必要に応じて通院援助や入・退院援助を提供している。	協力医療機関による定期的な訪問診療と訪問看護師による健康管理が受けられるほか、本人や家族の希望するかかりつけ医を、家族と職員とで協力して受診につなげている。受診記録は業務日誌と支援経過に記載し情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問時は、日勤職員が相談や情報提供を行っている。また訪問看護事業所への連絡を一元化する等、入居者が必要とする医療サービスを適切に受けられるように連絡体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、情報提供を行うとともに着替えや日用品等の必要物品の準備等の援助を提供している。また入院中は、随時の面会で回復状況や心身機能の状態を確認し、退院後の生活に不安や不足が生じないよう医療との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期(看取り)については、施設の方針や援助の内容を入居時に必ず書面で説明して同意を得ている。医師から家族への終末期の宣告時は必ず同席して医師の指示を確認するとともに、家族の意向を伺って援助に活かしている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」と「医療連携体制(看取り)同意書」を取り交わし、終末期に改めて説明することで家族の思いを確認している。急変する可能性の高い重度化については、対応の仕方も変化しやすいため、意識して説明するよう努めている。看取りに関しては、年間数例実績があり、関係者間で連携を図り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月例の職員会議で緊急時をテーマにした研修会を行うとともに職員がいつでも見られる所にマニュアルを置き、急変や事故発生に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火管理者が中心となり、定期的に避難訓練を実施している。また地域協力隊を組織し、地域からの協力も得られる体制を築いている。</p>	<p>年1回消防署立ち会いの下、夜間を想定した火災訓練を実施するほか、避難経路の確認や非常ベル等、緊急通報の手順を確認する自主訓練を実施している。地域住民で結成している「地域協力隊」の代表者を通報名簿に記載し、訓練では消防車の誘導や避難場所での利用者の見守りを依頼している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重要事項説明書にプライバシー保護についての施設の方針を記載し本人や家族に説明し同意を得ている。また「接遇マナー・職業倫理」をテーマにした施設内研修でプライバシー保護の重要性について学んでいる。	接遇や排泄に関する研修を年間計画に組み込み、トイレ誘導時の声のかけ方に気を配ったり、ポータブルトイレを使わない時は、見えにくい場所に置くなど配慮している。また、個別カルテについても、部外者から見えないよう事務所の棚に置き管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の身体機能に合わせたコミュニケーション方法を用いることで、可能な限り自己決定ができるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間など、体調や気分に合わせて提供する等の便宜を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族の協力を得ながら、季節に合った服装ができるよう衣服の入れ替えを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の喫食状況や摂取量から嗜好の傾向を把握するとともに季節感のあるメニュー作りに努めている。入居者個々の身体機能に応じ、下膳や台拭き等の家事活動参加を援助している。	毎月の献立は調理担当者が立てており、利用者にリクエストを尋ね、献立に反映させている。また、お正月や雛祭り等の行事の際は、行事食を提供することで季節を感じてもらえるよう工夫している。菜園の野菜も食材として利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔機能に応じた食形態やトロミの使用、身体機能に応じた自助具の活用等、入居者個々の能力に応じた食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者全員の口腔ケアの援助を実施するとともにケア実施表に記録している。義歯は洗浄剤を使用し毎晩、洗浄・除菌を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者個々の機能を見極め、残存機能の活用とできない部分の援助を心掛けている。また手すりの設置など、自立に向けた環境整備にも積極的に取り組んでいる。	トイレの失敗があると気落ちしてしまうため、可能な限り失敗しないよう定期的にトイレ誘導を行っている。日中は布下着の利用者も夜間はリハビリパンツを使用したり、容量の大きいパットを使用するなど入眠を妨げないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や量は毎日チェックしケア実施表に記録している。バランスの良い食事の提供を心掛けるとともに散歩等の運動も促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の基本は2日に1回のペースだが、毎日入浴も提供する等入居者の意向や身体状況に応じた援助を心掛けている。風呂は毎日準備しているので、希望があれば毎日でも入浴できる。	入浴は希望があれば毎日入浴でき、足浴やシャワー浴にも随時対応している。また、気持ちよく過ごしてもらえるよう、ゆず湯や入浴剤を使用することもある。入浴後は皮膚ケアや水分補給にも気を配り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の習慣に合わせた寝具を使用したり、日中でも心身状況に応じて横になって休息してもらうなど、心地よい睡眠を得られるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の情報は、職員がいつでも見ることができる場所に置いている。また、医師の指示どおりの服薬のために個々に応じた服薬援助を提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体機能や生活歴に着目し、洗濯物や食材の下ごしらえ等の家事活動、また散歩やレク等の余暇活動への参加を促し、生き甲斐のある生活と気分転換を援助している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に合わせて散歩やゴミ捨ての同行を声掛けしている。また家族の協力を得ながら一時帰宅や墓参り等で住み慣れた場所への外出も援助している。	昨年は気分転換を兼ねて職員と一緒にゴミ捨てに同行したり、買い物に出かけたりしていたが、今年に入りコロナウィルスの影響で外出制限となり、敷地内での散歩や東屋でお茶を飲む等に留まっている。外出できない代わりに、体操やゲーム等のレクリエーション活動を楽しめるよう工夫し取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者が普段使うティッシュや歯磨き粉、保湿クリーム等の日用品は、金銭管理のできる入居者は本人持ち現金からの購入を援助している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話や手紙の取次ぎの援助は、随時行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分を含め、居住空間全体の整理整頓と清潔保持に努めている。また、民芸品や小物等で、季節感のある安心できる生活空間作りに努めている。</p>	<p>リビングには天窓を備えており、採光は十分確保できており、夏はシーリングファン、冬は電気式暖房機により快適な室温を保っている。リビング中央の畳スペースにはくつろげるようソファを置いており、新しい畳に替えたことで、利用者から「畳の香りがよい」と好評である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用部分に大型テレビとテーブル・ソファを設置し、入居者同士がゆっくりと歓談できるスペースを設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は全て個室で、自宅で使い慣れた家具の持ち込みや家族写真の掲示も許可しており、プライバシーが守られた居心地のいい安心感のある生活の場となるよう便宜を図っている。</p>	<p>備え付けのエアコンと電動ベッド以外は、自宅で使っていた馴染みの家具やテレビ、雑貨等を持ち込み、居心地に配慮している。居室の掃除や換気、消毒については、朝夕の2回実施することで感染症予防につなげている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は、バリアフリーで日常生活上の必要な場所に手すりを設置し、入居者が伝い歩きでも安心して食堂やトイレ、浴室に行けるよう配慮している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない